

【第1問】 下記の(問1)、(問2)について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング業務を行うに当たっては、関連業法を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー(以下「FP」という)の行為に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 社会保険労務士資格を有していないFPが、顧客の質問に応じて、日本の公的年金制度の仕組みと特徴について説明をした。
2. 生命保険募集人の登録をしていないFPが、顧客から相談を受け、将来の必要保障額の試算および加入している保険の見直しを行った。
3. 税理士資格を有していないFPが、顧客から要望を受け、無償で税務書類の作成を行った。

(2014年9月改題)

問2

下記は、有馬家のキャッシュフロー表(一部抜粋)である。このキャッシュフロー表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満を四捨五入すること。

(2014年9月改題)

<有馬家のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1年	2年
西暦(年)			2015	2016	2017
平成(年)			27	28	29
家族 / 年齢	有馬 健太	本人	38歳	39歳	40歳
		満里	妻	39歳	40歳
		心菜	長女	7歳	8歳
ライフイベント		変動率	心菜 小学校入学		
収入	給与収入(夫)	1%	472		
	給与収入(妻)	—	95		
	収入合計	—	567	572	576
支出	基本生活費	2%	224		(ア)
	住宅関連費	—	133	133	133
	教育費	2%	36		
	保険料	—			41
	一時的支出	—			
	その他支出	—			
	支出合計	—	457	456	
年間収支		—	(イ)		
金融資産残高		1%	347	(ウ)	

※ 年齢は各年12月31日現在のものとし、平成27年を基準年とする。

※ 記載されている数値は正しいものとする。

※ 問題作成の都合上、一部空欄にしてある。

1. 空欄(ア)に入る数値とその求め方：「 $224 \times (1 + 0.02) = 228$ 」
2. 空欄(イ)に入る数値とその求め方：「 $567 - 457 = 110$ 」
3. 空欄(ウ)に入る数値とその求め方：「 $347 \times (1 + 0.01) + (572 - 456) = 466$ 」

【第2問】 下記の(問3)、(問4)について解答しなさい。

問3

下記<資料>に基づく株式の評価尺度に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
(2014年9月改題)

<資料>

株価	2,600円
1株当たり年間配当金	39円
1株当たり利益	200円
1株当たり純資産	2,080円

1. 株価収益率(PER)は、株価が1株当たり利益に対して何倍であるかを表す指標で、「 $2,600円 \div 200円 = 13$ (倍)」である。
2. 株価純資産倍率(PBR)は、1株当たり純資産が株価に対して何倍であるかを表す指標で、「 $2,080円 \div 2,600円 = 0.8$ (倍)」である。
3. 配当利回りは、1株当たり利益に対する年間配当金の割合を表す指標で、「 $39円 \div 200円 \times 100 = 19.5$ (%)」である。

問4

田中利彦さんは、RA銀行(日本国内に本店のある普通銀行)に下記<資料>の預金を預け入れている。仮に、RA銀行が破たんした場合、預金保険制度により保護される元本(最大金額)として、正しいものはどれか。

(2014年9月改題)

<資料>

決済用預金	1,000万円
円普通預金(利息付き)	500万円
円定期預金	800万円

※ RA銀行において借入れはない。

1. 1,000万円
2. 2,000万円
3. 2,300万円

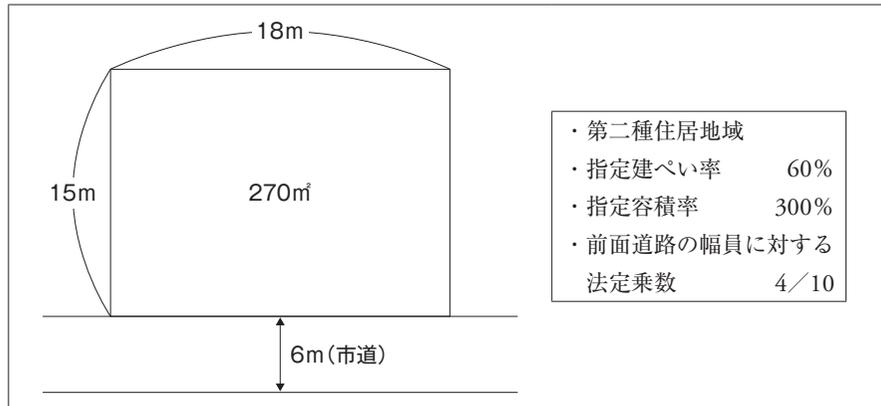
【第3問】 下記の(問5)、(問6)について解答しなさい。

問5

建築基準法に従い、下記<資料>の土地に建築物を建築する場合の延べ面積(床面積の合計)の最高限度として、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

(2014年9月改題)

<資料>



1. 162㎡
2. 648㎡
3. 810㎡

問6

公的な土地評価に関する下表の空欄(ア)～(ウ)にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

(2011年9月改題)

	公示価格	(イ)	固定資産税評価額
所 管	国土交通省	国税庁	市町村
価格判定の基準日	毎年(ア)	毎年1月1日	基準年度の前年の1月1日((ウ)評価替え)
用途・目的	一般の取引価格の指標	相続税・贈与税等の算出の基礎	固定資産税等の算出の基礎

1. (ア)1月1日 (イ)相続税路線価 (ウ)3年に1度
2. (ア)4月1日 (イ)相続税路線価 (ウ)5年に1度
3. (ア)1月1日 (イ)実勢価格 (ウ)5年に1度

【第4問】 下記の(問7)～(問10)について解答しなさい。

問7

馬場憲明さんが加入している生命保険(下記<資料>参照)の保障内容に関する次の記述の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、憲明さんはこれまでに<資料>の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

(2014年9月改題)

<資料>

保険証券記号番号 ○○△△××□□		定期保険特約付終身保険	
保険契約者 馬場 憲明 様	保険契約者印 	◇契約日(保険期間の始期) 2008年12月1日 ◇主契約の保険期間 終身 ◇主契約の保険料払込期間 60歳払込満了	
被保険者 馬場 憲明 様(男性) 契約年齢 32歳		◆ご契約内容	
受取人 (死亡保険金) 馬場 奈美恵 様(妻)		受取割合 10割	◆払込み合計保険料 毎回××,××××円/月 [保険料払込方法(回数)] 団体月払い ◇社員配当金支払方法 利息をつけて積立 ◇特約の払込期間・保険期間 10年
◆ご契約内容 終身保険金額(主契約保険金額) 600万円 定期保険特約保険金額 1,000万円 特定疾病保障定期保険特約保険金額 500万円 傷害特約保険金額 100万円 災害入院特約[本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 疾病入院特約[本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 不慮の事故や疾病により所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて(入院給付金日額の10倍・20倍・40倍)手術給付金を支払います。 成人病入院特約 入院5日目から 日額5,000円 リビング・ニーズ特約 ※ 妻の場合は、本人の給付金の6割の日額となります。		◆払込み合計保険料 毎回××,××××円/月 [保険料払込方法(回数)] 団体月払い ◇社員配当金支払方法 利息をつけて積立 ◇特約の払込期間・保険期間 10年	

馬場憲明さんが、平成27年中に急性心筋梗塞で死亡(急死)した場合に支払われる死亡保険金は、合計(ア)である。

- 2,200万円
- 2,100万円
- 1,600万円

問8

三上亨さんが加入しているガン保険(下記<資料>参照)の保障内容に関する次の記述の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、亨さんはこれまでに<資料>の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

(2014年9月改題)

<資料>

保険証券記号番号(○○○)△△△△		保険種類ガン保険(愛称*****)	
保険契約者 三上 亨 様	保険契約者印 	◇契約日(保険期間の始期) 2014年10月1日 ◇主契約の保険期間 終身 ◇主契約の保険料払込期間 終身払込	
被保険者 三上 亨 様 契約年齢36歳 男性		◆ご契約内容	
受取人 (給付金) 被保険者 様 (死亡給付金) 三上 淳子 様(妻)		受取割合 10割	◆払込み合計保険料 毎回 ×,××××円 [保険料払込方法] 月払い
◆ご契約内容 主契約 [本人型] ガン診断給付金 初めてガンと診断されたとき 100万円 ガン入院給付金 1日につき 日額 10,000円 ガン通院給付金 1日につき 日額 5,000円 手術給付金 1回につき 手術の種類に応じてガン入院給付金日額の10倍・20倍・40倍 死亡給付金 ガン入院給付金日額の100倍(ガン以外の死亡の場合は、ガン入院給付金日額の10倍)		◆払込み合計保険料 毎回 ×,××××円 [保険料払込方法] 月払い	

三上亨さんは、
 ・平成27年中に初めてガン(悪性新生物)と診断され、その後20日間入院し、給付倍率20倍の手術(1回)を受けた。
 ・退院後も継続して治療するため6日間通院した。
 この場合、支払われる給付金は、合計(ア)である。

- 123万円
- 143万円
- 146万円

問9

北川さん夫妻(いずれも会社員)が加入している生命保険は下表のとおりである。下表の契約A~Cについて、保険金・給付金が支払われた場合の課税関係に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(2014年9月改題)

	保険種類	保険料 払込方法	保険契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡保険金 受取人	満期保険金 受取人
契約A	終身保険	月払い	夫	夫	妻	—
契約B	医療保険	月払い	妻	妻	夫	—
契約C	養老保険	月払い	妻	夫	妻	妻

1. 契約Aについて、妻が受け取った死亡保険金は、相続税の課税対象となる。
2. 契約Bについて、妻が受け取った入院給付金は、一時所得として所得税・住民税の課税対象となる。
3. 契約Cについて、妻が受け取った満期保険金は、贈与税の課税対象となる。

問10

高倉浩貴さんが契約している普通傷害保険の主な内容は、下記<資料>のとおりである。次の1~3のケース(該当者は高倉浩貴さんである)のうち、保険金の支払い対象とならないケースはどれか。なお、1~3のケースはいずれも保険期間中に発生したものである。また、<資料>に記載のない事項については一切考慮しないこととする。

(2014年9月改題)

<資料>

保険種類	普通傷害保険
保険期間	1年間
保険契約者	高倉浩貴
被保険者	高倉浩貴
死亡・後遺障害保険金額	5,000万円
入院保険金日額	5,000円
通院保険金日額	3,000円

※ 特約は付帯されていない。

1. ハイキングに行った際に転んでケガをし、破傷風に感染したため、入院した。
2. 休日に行った草野球の試合中に手にボールが当たり、骨折をして通院した。
3. 地震により発生した火災が原因で、手にやけどを負い通院した。

【第5問】 下記の(問11)～(問13)について解答しなさい。

問11

下記の3人の会社員のうち、平成27年分の所得税において確定申告を行う必要がない人は誰か。なお、<資料>に記載のない条件については一切考慮しないこととする。

(2014年9月改題)

<資料：3人に関するデータ(平成27年12月31日時点)>

氏名	年齢	給与収入(年収)	勤務先	備考
大垣直樹	30歳	500万円	ST銀行	・勤務先の給与収入のみ。 ・勤務先で年末調整を受けている。 ・平成27年中に住宅を取得し、住宅借入金等特別控除の適用を受ける。
細川智行	35歳	750万円	SK産業	・勤務先の給与収入以外に一時所得の金額が10万円、雑所得の金額が5万円ある。 ・勤務先で年末調整を受けている。
谷口正志	42歳	2,800万円	SP商事	・勤務先の給与収入のみ。

※ 給与収入(年収)は平成27年分の金額である。

1. 大垣直樹
2. 細川智行
3. 谷口正志

問12

下記は、加入者が負担する掛金と所得控除の関係について示した表である。下表の空欄(ア)、(イ)にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

(2014年9月改題)

加入者が負担する掛金	所得控除
確定拠出年金(個人型)	(ア)の対象
国民年金基金	(イ)の対象
小規模企業共済	小規模企業共済等掛金控除の対象

1. (ア)小規模企業共済等掛金控除 (イ)社会保険料控除
2. (ア)社会保険料控除 (イ)小規模企業共済等掛金控除
3. (ア)生命保険料控除 (イ)生命保険料控除

問13

青山勇次さんは、個人でアパートの賃貸経営を行っている(青色申告者である)。青山さんの平成27年分の所得および所得控除が下記<資料>のとおりである場合、青山さんの平成27年分の所得税の額として、正しいものはどれか。なお、青山さんは、平成27年中は不動産所得のほかには所得はなく、税額控除や源泉徴収税額、復興特別所得税、予定納税等については考慮しないこととする。

(2014年9月改題)

<資料>

[平成27年分の所得]

不動産所得の金額930万円

※ 青色申告特別控除額を控除した後の金額である。

[平成27年分の所得控除]

所得控除の合計額230万円

※ 社会保険料控除、基礎控除など、所得金額から差し引かれる金額をいう。

※ 総所得金額から、所得控除を行って、課税総所得金額を算出する。

<課税総所得金額に対する所得税の計算方法>

課税総所得金額×(所得税の速算表の)税率-(所得税の速算表の)控除額

<所得税の速算表>

課税総所得金額	税率	控除額
1,000円から 1,949,000円まで	5%	0円
1,950,000円から 3,299,000円まで	10%	97,500円
3,300,000円から 6,949,000円まで	20%	427,500円
6,950,000円から 8,999,000円まで	23%	636,000円
9,000,000円から 17,999,000円まで	33%	1,536,000円
18,000,000円から 40,000,000円まで	40%	2,796,000円
40,000,000円以上	45%	4,796,000円

(注) 課税される所得金額の1,000円未満の端数は切り捨てること。

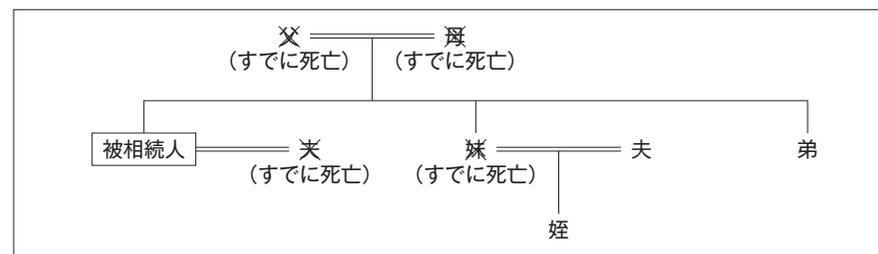
- 1,610,000円
- 1,533,000円
- 974,000円

【第6問】 下記の(問14)について解答しなさい。

問14

平成27年8月30日に相続が開始された被相続人の<親族関係図>が下記のとおりである場合、民法上の相続人および法定相続分の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

(2014年9月改題)



1. 弟 1
2. 弟 1/2 姪 1/2
3. 弟 3/4 姪 1/4

【第1問】

問1 (正解) 3

1.
2.
3. × 税理士資格を有していないFPが、顧客から要望を受け、税務書類の作成を行うことは、有償・無償を問わず税理士法に違反する。

問2 (正解) 1

1. × 現在(平成27年)の基本生活費が224万円で、変動率が2%である場合には、2年後(平成29年)の基本生活費の空欄(ア)は次のとおり求める。
 $224万円 \times (1 + 0.02)^2 = 233万円$ (万円未満四捨五入)
2. 年間収支の空欄(イ)は、収入合計567万円より支出合計457万円を減算することによって次のとおり求める。
 $567万円 - 457万円 = 110万円$
3. 現在(平成27年)の金融資産残高は347万円である。この347万円を変動率(運用率)1%で運用し、平成28年の年間収支116万円(=572万円-456万円)を加算して平成28年末の金融資産残高の空欄(ウ)を計算する。
 $347万円 \times (1 + 0.01) + (572万円 - 456万円) = 466万円$ (万円未満四捨五入)

【第2問】

問3 (正解) 1

1.
2. × 株価純資産倍率(PBR)は、株価が1株当たり純資産に対して何倍であるかを表す指標で、「 $\frac{2,600円}{2,080円} = 1.25$ (倍)」である。
3. × 配当利回りは、株価に対する1株あたりの年間配当金の割合を表す指標で、「 $\frac{39円}{2,600円} \times 100 = 1.5$ (%)」である。

問4 (正解) 2

預金保険制度により保護される元本は、次のとおりとなる。

- ① 決済用預金 1,000万円(金額にかかわらず全額が保護される。)
 - ② 円普通預金(利息付き)と円定期預金
 $500万円 + 800万円 = 1,300万円 > 1,000万円 \therefore 1,000万円$
 ※ 1,000万円を超える部分の300万円は、預金保険制度により保護されない。
 - ③ ①+②=2,000万円
- よって、2.の選択肢が正解となる。

【第3問】

問5 (正解) 2

建築物を建築する場合、この土地に対する建築物の延べ面積の最高限度については、容積率を用いて計算するが、前面道路の幅員が12m未満の場合には、「指定容積率」と「前面道路幅員×前面道路の幅員に対する法定乗数」のいずれか小さい方が容積率の限度となる。

$$270m^2 \times 240\% = 648m^2$$

※ 容積率の限度

$$300\% > \frac{\text{指定容積率}}{300\%} > \frac{\text{前面道路幅員} \times \text{法定乗数}}{6m \times \frac{4}{10}} = 240\% \therefore 240\%$$

よって、2.の選択肢が正解となる。

問6 (正解) 1

公的な土地評価に関する表の空欄を埋めると、次のとおりとなる。

	公示価格	(相続税路線価) ^{空欄(イ)}	固定資産税評価額
所 管	国土交通省	国税庁	市町村
価格判定の基準日	毎年(1月1日) ^{空欄(ア)}	毎年1月1日	基準年度の前年の1月1日 ^{空欄(ウ)} (3年に1度)評価替え)
用途・目的	一般の取引価格の指標	相続税・贈与税等の算出の基礎	固定資産税等の算出の基礎

よって、1.の選択肢が正解となる。

【第4問】

問7 (正解) 2

馬場憲明さんが、平成27年中に急性心筋梗塞で死亡(急死)した場合に支払われる死亡保険金の合計は、次のとおりである。

$$600万円 + 1,000万円 + \frac{500万円}{2} = 2,100万円$$

なお、特定疾病保障定期保険特約は、死亡事由にかかわらず、死亡保険金が支払われる。また、傷害特約は、不慮の事故による死亡の際は、死亡保険金が支払われるが、病死では死亡保険金は支払われない。

よって、2.の選択肢が正解となる。

問8 (正解) 2

三上亨さんが平成27年中に初めてガン(悪性新生物)と診断され、その後20日間入院し、給付倍率20倍の手術(1回)を受け、退院後も6日間通院した場合、支払われる給付金の合計額は、次のとおりとなる。

$$100\text{万円} + 1\text{万円} \times 20 + 1\text{万円} \times 20\text{倍} + 5,000\text{円} \times 6\text{日} = 143\text{万円}$$

よって、2.の選択肢が正解となる。

問9 (正解) 1

1. ○ 契約Aについて、妻が受け取った死亡保険金は、被相続人である夫が保険料負担者であるため、相続税の課税対象となる。
2. × 契約Bについて、妻が受け取った入院給付金は、保険料負担者にかかわらず、非課税となる。
3. × 契約Cについて、妻が受け取った満期保険金は、妻自身が保険料負担者であるため、一時所得として所得税・住民税の課税対象となる。

問10 (正解) 3

1. ○
2. ○
3. × 普通傷害保険では、「地震」により発生した火災が原因で、手にやけどを負い通院しても、保険金の支払い対象とはならない。

【第5問】

問11 (正解) 2

1. × 平成27年中に住宅を取得し、住宅借入金等特別控除の適用を受けるためには、平成27年分の所得税において確定申告を行う必要がある。
 なお、会社員(給与所得者)の場合、2年目以降は年末調整で適用を受けることができるため、平成28年分以降の所得税においては、確定申告を要しない。
2. ○ 年末調整を受けている給与所得者で、給与所得および退職所得以外の所得金額が20万円以下である者は、確定申告を要しない。
 細川智行さんは、勤務先で年末調整を受けており、給与収入以外の所得は一時所得の金額10万円と雑所得の金額5万円のみであるため、確定申告を要しない。
3. × 給与収入が2,000万円を超える者は、年末調整がされないため、確定申告を行う必要がある。

問12 (正解) 1

確定拠出年金(個人型)の加入者が負担する掛金は、(小規模企業共済等掛金控除)の対象となり、国民年金基金の加入者が負担する掛金は、(社会保険料控除)の対象となる。

よって、1.の選択肢が正解となる。

問13 (正解) 3

- (1) 課税総所得金額
 $930\text{万円} - 230\text{万円} = 700\text{万円}$
 - (2) 所得税の額
 $7,000,000\text{円} \times 23\% - 636,000\text{円} = 974,000\text{円}$
- よって、3.の選択肢が正解となる。

【第6問】

問14 (正解) 2

被相続人の夫(配偶者)はすでに死亡しており、子(第一順位)、直系尊属(第二順位)がいないため、民法上の法定相続人は、兄弟姉妹(第三順位)のみとなる。また、妹はすでに死亡しているため、姪が代襲相続人となる。したがって、民法上の法定相続人は弟と姪であり、法定相続分は弟が $\frac{1}{2}$ 、姪が $\frac{1}{2}$ となる。
 よって、2.の選択肢が正解となる。